

- 問1 ある地域では、排水処理で生じた下水汚泥に農作物に有効な窒素やリンが含まれていることに着目し、これを肥料に加工してイチゴなどの農作物を栽培する取り組みを行っています。この取り組みに関する説明として最も適当なものを1つ選びなさい。（2022年 宮崎県公立入試 類似）
- 下水汚泥の利用によって土壌中の水分量を一定に保ち、自然災害を完全に防いでいる。
 - 化学肥料の完全代替を実現し、農薬やほかの肥料を一切使わずに栽培を行っている。
 - 下水汚泥由来の肥料を使うことで、農業生産にかかるすべてのコストを削減している。
 - 下水処理で生じる廃棄物を資源として利用し、持続可能な社会の形成に貢献している。
- 問2 1960年時点では第一次産業の就業者割合が非常に高く、工業生産額も少なかった地域において、2010年には第三次産業が産業の大部分を占め、工業生産額も飛躍的に増大している統計データがあります。このような、交通網の整備などを背景に産業の中心が移行する現象を何と呼びますか。（2016年 静岡県公立入試 類似）
- 地産地消の推進
 - 食料自給率の向上
 - 産業構造の高度化
 - 第一次産業への回帰
- 問3 食品ロスの削減に向けた消費者の意識を調査した統計において、約8割の人が「残さずに食べる」と回答しているほか、「家にある食品の在庫を確認してから買い物に行く」といった行動をとる人の割合も高い水準にあります。このような、現代の消費者が日常生活の中で行っている「食品ロス削減」のための具体的な取り組みとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 徳島県公立入試 類似）
- 食品ロスへの無関心層が増加しているため、個人の取り組みよりも企業の責任のみを追及する。
 - 食品の廃棄を避けるため、賞味期限や消費期限が設定されている食品の購入を一切控える。
 - 安売りされている食品を、食べられるかどうかに関わらず大量に買い溜めしておく。
 - 買い物に行く前に冷蔵庫の中身を確認し、必要な分だけを購入することで買いすぎを防ぐ。
- 問4 地域の自然環境や伝統文化に触れ、それらの保全に取り組みながら、地域の活性化を図ることを目的とした観光のあり方を何といいますか。（2023年 滋賀県公立入試 類似）
- エコツーリズム
 - アグリツーリズム
 - マスツーリズム
 - バリアフリーツーリズム
- 問5 2014年の統計において、日本の輸出額の58.1%、輸入額の63.3%を占め、輸出入ともに最大の割合となっている地域を、次のうちから選びなさい。（2016年 大分県公立入試 類似）
- ヨーロッパ
 - オセアニア
 - アジア
 - 北アメリカ
- 問6 ある地域の居住者数を示す「夜間人口」に対し、通勤や通学者を含めた昼間の人口の割合を示す指標を「昼夜間人口比率」と呼びます。静岡県の統計において、この比率が100%を下回っている主な理由として適切な説明はどれですか。（2026年 山形県公立入試 類似）
- 県内の過疎化が進んだ結果、若年層が県外へ完全に移住してしまい、夜間人口そのものが昼間人口よりも少なくなったため。
 - 製造業が盛んな愛知県や、大消費地である東京都・神奈川県などへ通勤・通学する人が、県外から流入する人よりも多いため。
 - 静岡県は他県に比べて人口密度が非常に高く、夜間の居住者数が昼間の活動人口を常に上回る構造になっているため。
 - 観光客の流入は多いものの、統計上の昼間人口には観光客が含まれないという計算規則があるため。
- 問7 日本のエネルギー政策において、地熱発電は国内の自然環境を活かした発電方式として注目されていますが、その設置場所には特有の制約があります。地熱発電所の多くが、東北地方や九州地方の山間部に集中している理由として最も適切な説明はどれですか。（2024年 秋田県公立入試 類似）
- 原料となる石炭や液化天然ガス（LNG）を輸入するための大型港湾が必要なため
 - 大規模なダムを建設して、落差を利用した水の勢いを得る必要があるため
 - 日照時間が長く、広大な平坦地を確保できる地域が適しているため
 - 発電に必要な高温の蒸気や熱水が得られる場所が、火山活動の活発な地域に限られるため
- 問8 日本の人口構成の変遷について述べたものとして、統計上の年代が古い順から並んだ正しい組み合わせを選びなさい。なお、1920年を「富士山型」、1980年を「中央部が膨らんだ移行期」、2015年を「つぼ型」と表現します。（2021年 沖縄県公立入試 類似）
- つぼ型 → 中央部が膨らんだ移行期 → 富士山型
 - 中央部が膨らんだ移行期 → 富士山型 → つぼ型
 - 富士山型 → 中央部が膨らんだ移行期 → つぼ型
 - 富士山型 → つぼ型 → 中央部が膨らんだ移行期
- 問9 日本の米の輸出量と輸入量の推移をまとめた統計において、1965年から1970年にかけて、一時的に輸出量が輸入量を上回る逆転現象が起きました。この時期に米の輸出量が輸入量を上回った背景として、最も適切な理由を説明しているものはどれですか。（2022年 神奈川県公立入試 類似）
- 農業技術の向上による収穫量の増加や、食生活の変化に伴う消費量の減少により、国内で米が余る「過剰米」の問題が生じていたため
 - 工業製品の輸出を促進するため、貿易相手国から米を輸入することを法律で厳しく制限し、国内産の米を強制的に輸出させたため
 - 世界的な食糧危機が発生し、日本政府が人道支援のために国内の備蓄米をすべて海外へ売却することを優先したため
 - 高度経済成長による人手不足で稲作が衰退し、輸入を頼る状況から一転して、政府が米の生産を完全に放棄したため
- 問10 近畿、中国・四国、九州地方の主要な府県である大阪府、広島県、福岡県の3地点における1990年と2010年の人口統計を比較したとき、すべての地点および時期において共通して成立する記述として正しいものはどれですか。（2017年 千葉県公立入試 類似）
- 昼間人口が夜間人口を上回っている。
 - 昼間人口と夜間人口の差が、20年間の間に完全になくなっている。
 - 夜間人口が昼間人口を上回っている。
 - 1990年時点よりも、2010年時点の方が夜間人口が大幅に減少している。
- 問11 静岡県の茶産地では、山間部の傾斜地を利用して茶が栽培されている風景が多く見られます。このように、あえて傾斜地が茶の栽培に利用される理由として、土地の性質の観点から説明したものとして正しいものを次の中から選びなさい。（2017年 山形県公立入試 類似）
- 傾斜地は平地に比べて雨水が流れやすく、水はけ（排水性）がよいため
 - 傾斜地は平地に比べて土壌が常に湿潤な状態に保たれ、乾燥を防げるため
 - 傾斜地は平地に比べて気温が低く、害虫の発生を抑えることができるため
 - 傾斜地は平地に比べて機械による大規模な収穫作業を効率化できるため
- 問12 新潟県の工業に関する統計において、化学工業は事業所数の割合が極めて小さい一方で、製造品出荷額の割合は約35パーセントと全産業の中で最大となっています。このデータから読み取れる、化学工業の1事業所あたりの特徴として最も適切な説明を選んでください。（2020年 愛知県公立入試 類似）
- 1事業所あたりの生産規模が、他の産業と比べて大きい。
 - 小規模な工場が多数集まり、地域ブランドを形成している。
 - 原材料費が安く抑えられているため、出荷額が低くなっている。
 - 労働集約的な産業であり、多くの労働者を必要としている。